

## 1. 略歴

- 1981年3月 東京大学大学院社会学研究科修士課程修了
- 1983年3月 東京大学大学院社会学研究科博士課程中退
- 1983年4月 東京大学教養学部助手
- 1986年4月 法政大学社会学部専任講師
- 1988年4月 法政大学社会学部助教授
- 1994年10月 東京大学文学部助教授（東京大学大学院社会学研究科担当）
- 1995年4月 東京大学大学院人文社会系研究科助教授（文学部担当）
- 2000年4月 同研究科文化資源学専攻助教授（形態資料学専門分野）併任
- 2005年3月 博士（社会学）学位 東京大学
- 2005年9月 東京大学大学院人文社会系研究科教授（文学部担当）

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野

文化の社会学、社会意識論、社会学方法論、社会調査史

### b 研究課題

概要

- (1) 歴史社会学の思想と方法。一つの基礎資料としての柳田国男を中心とした全集の編纂。
- (2) モノとしての書物をモデルとしたメディア文化の地層分析。読書空間論。
- (3) 社会調査の社会史。日本近代における調査の実践と方法意識の展開について。
- (4) 文字テキスト以外の資料へのテキスト概念の可能性の拡大。かわら版・新聞錦絵データベースの実験、など。

### c 概要と自己評価

2014年度から2015年度にかけては、社会学における学部の卒業論文、大学院における修士論文・博士論文等を念頭に、『論文の書きかた』をまとめ、社会学的想像力をどう動かしていくかを論じた。問いの立てかたや、調査研究の仕方とともに図表の使い方までを論じ、研究倫理にも触れている。『方法としての柳田国男』という最初の著作を、全集編纂の経験をふまえて発展させた『柳田国男の歴史社会学』は、この20年近くに及ぶ編纂作業での発見の集大成であると同時に、旧来の研究を支えてきた「定本」というテキスト空間に対する組織的な批判でもあった。歴史社会学の実験としての十二階凌雲閣は、「民間学」の再評価という側面を含め、また近代歴史社会資料の方法論という要素も加味しつつ、ライフヒストリー研究の作品としても評価しうる『浅草公園凌雲閣十二階』としてまとめられた。研究主体の生きた空間もろとも対象を浮かびあがらせる工夫をおこなっている。その他、戦後日本を代表する知識人である鶴見俊輔と、日本の戦後社会学を代表する見田宗介について、研究序説的な論考を書いている。また、アルザス欧州日本学研究所と国際交流基金が共催するアルザス日欧知的交流事業・日本研究セミナーでは、2014年度と2015年度の二年間にわたり主任講師をつとめて、ヨーロッパ各国の若手日本研究者の指導をおこない、交流を深めた。

### d 主要業績

#### (1) 著書

- 単著、佐藤健二、『論文の書きかた』、弘文堂、2014.12
- 単著、佐藤健二、『柳田国男の歴史社会学：続 読書空間の近代』、せりか書房、2015.2
- 単著、佐藤健二、『浅草公園凌雲閣十二階：失われた〈高さ〉の歴史社会学』、弘文堂、2016.2

#### (2) 論文

- 佐藤健二、「社会を探究する理路：盛山和夫著『社会学的方法的立場』を読む」、『UP』、2014年6月号、1-6頁、2014.6
- 佐藤健二、「読む対象としての〈文〉／知る方法としての〈文〉」、『UP』、2014年8月号、1-4頁、2014.8
- 佐藤健二、「近代日本における「実業」の位相：渋沢栄一を中心に」、平井雄一郎・高田知和編『記憶と記録のなかの渋沢栄一』法政大学出版局、47-73頁、2014.8
- 佐藤健二、「「演説」と「挨拶」の公共圏：声の力の原点から考える」、熊野純彦・佐藤健二編『人文知3 境界と交流』東京大学出版会、187-209頁、2014.9
- 佐藤健二、「歴史社会学におけるデータ批判：資料の社会的存在形態の解説」、野上元・小林多寿子編『歴史と向きあう社会学』ミネルヴァ書房、103-106頁、2015.7

佐藤健二、「鶴見俊輔における「身体」と「ことば」」、『現代思想』、43 卷 15 号 (10 月臨時増刊号)、170-179 頁、2015.10  
佐藤健二、「見田宗介と柳田国男：初期著作論考にあらわれた歴史社会学の諸問題」、『現代思想』、1 月臨時増刊号、  
194-209 頁、2016.1.

(3) 書評

加島卓、『〈広告制作者〉の歴史社会学』、せりか書房、『読書人』、5 月 23 日号、2014.5

武田尚子、『20 世紀イギリスの都市労働者と生活：ロウントリーの貧困研究と調査の軌跡』、ミネルヴァ書房、『日本  
都市社会学会年報』、33 号、2015.9

**3. 主な社会活動**

(1) 他機関での講義等

静岡県立大学非常勤講師 (2014 年度～2015 年度)、九州大学非常勤講師 (2015 年度)

(2) 学会

日本社会学会、社会調査協会

(3) 国際会議

国際交流基金・アルザス日本学研究所共催アルザス日欧知的交流事業・日本研究セミナー (2014 年度・2015 年度)